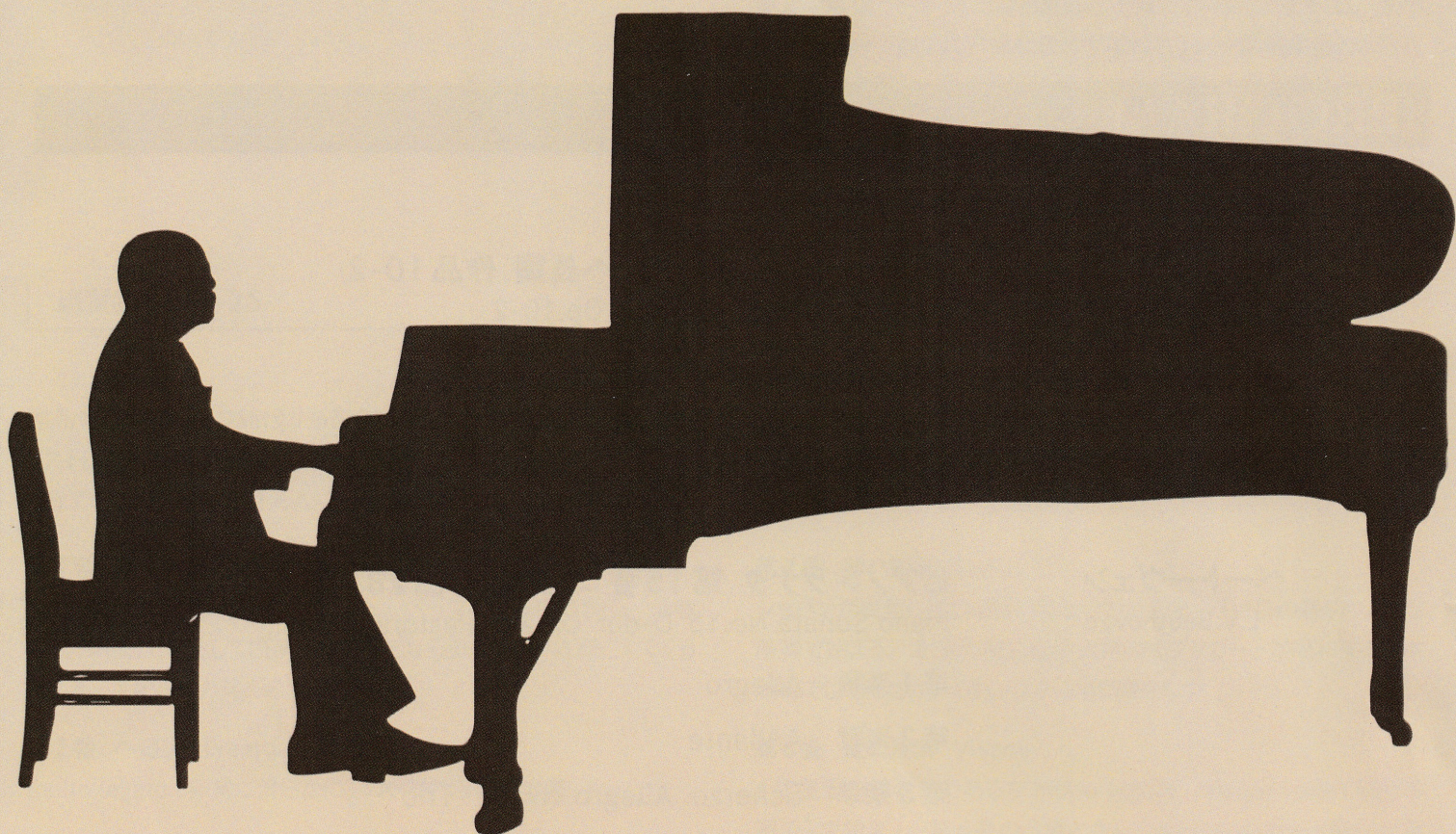


ASANO
SHIGERU
PIANO RECITAL



浅野 繁 忘れがたい曲による
ピアノリサイタル

2022/10/30 (日) 13:30 開場
14:00 開演
仙台市シルバーセンター 交流ホール

■企画・主催 浅野繁 館ムジカ

■助成 (公財)仙台市市民文化事業団

■後援 (株)ヤマハミュージックリテイリング 仙台店 (株)河合楽器製作所 カワイ仙台 河北新報社

本日はお忙しい中ご来場いただき誠にありがとうございます。

～忘れがたい曲による～として思い出に残る曲、どうしても弾きたい作品でプログラミングしてみました。
ベートーヴェンのソナタは私がスイスに留学して一年目にミケランジェリ先生から課題として与えられたものです。当時の情景が映像のように浮かんできます。40数年経って改めて曲の素晴らしさに感動しています。
ショパンのエチュードは、現在のコロナ禍の中で向き合いどんどん魅了されてしまいました。
今日のこの一時、音楽する喜びを共感して頂けたら幸いです。

浅野 繁

PROGRAM

ベートーヴェン
L.V.Beethoven
(1770~1827)

ピアノ・ソナタ 第6番 へ長調 作品10-2
Piano Sonata No.6 F-dur Op.10-2

- 第1楽章 Allegro
- 第2楽章 Allegretto
- 第3楽章 Presto

ベートーヴェン
L.V.Beethoven

ピアノ・ソナタ 第15番 二長調 作品28「田園」
Piano Sonata No.15 D-dur Op.28 "Pastorale"

- 第1楽章 Allegro
- 第2楽章 Andante
- 第3楽章 Scherzo. Allegro vivace - Trio
- 第4楽章 Rondo. Allegro ma non troppo
- Piu Allegro quasi Presto

————— 休憩 —————

ショパン
F.F.Chopin
(1810~1849)

練習曲 作品25
Etudes Op.25

- | | |
|---------------|-----------------|
| 第1番 変イ長調 「牧童」 | 第7番 嬰ハ短調 |
| 第2番 へ短調 | 第8番 変二長調 |
| 第3番 へ長調 | 第9番 変ト長調 「蝶々」 |
| 第4番 イ短調 | 第10番 口短調 |
| 第5番 ホ短調 | 第11番 イ短調 「木枯らし」 |
| 第6番 嬰ト短調 | 第12番 ハ短調 「大洋」 |

PROGRAM NOTE

ピアノ・ソナタ 第6番 へ長調 作品10-2

ベートーヴェン

1798年の作で緩徐楽章を除いた3つの楽章から成る。

彼の支援者でもあったブローネ伯爵夫人に献呈された。

第1楽章は、挨拶のようなリズムなモチーフで始まり続くメロディーは全く清々しい。青春を感じさせる曲である。**第2楽章**は短調でユニゾンで始まるスケルツォ風な楽章である。トリオ相当部分のコーラル風な和声進行が印象的。カノン風に始まる**第3楽章**はポリフォニックに書かれ軽快で躍動感に溢れている。

練習曲 作品25

ショパン

作品10がワルシャワ時代から書き始められたのに対し作品25は1832年彼がパリに移ってから書かれ1837年に出版された。シューマン、リストらロマン派の音楽家との交流が始まった頃であり、パガニーニの影響もみられる。技巧、音楽共に一層洗練され高度で充実した曲集になっている。ダゲー伯爵夫人に献呈された。

第1番 変イ長調 Allegro sostenuto 『牧童』

シューマンの著述から「エオリアン・ハーブ」とも呼ばれる。分散和音の中に上声そして内声、バスなどから様々な調べが聞こえてくるさまは、エオルスの琴をイメージさせる。

第2番 へ短調 Presto

molto legato (非常に滑らかに)の中での浮揚感が美しい。

第3番 へ長調 Allegro

上音からの非和声音を伴うパートと異なるリズムによるメロディーの組み合わせ。軽やかな3拍子で屈託のない楽しさに溢れている。

第4番 イ短調 Agitato

左手がスタッカートでリズムを刻み、右手のメロディーは一貫してシンコペーション。しかしスタッカート、レガートなど様々な奏法での表現が要求される。

第5番 ホ短調 Vivace

多様な非和声音をもつ旋律が軽く、そしてscherzando (おどけて)で奏される。ホ長調の中間部では左手で優美なメロディーがsostenuto (十分に音を保って)で歌われ、右手の分散和音がそれを飾る。

第6番 嬰ト短調 Allegro

右手の3度重音が半音階、音階で連続する練習曲である。しかし始まりの sotto voce (声を和らげてひそやかに) からショパンの詩情が感じられる。

ピアノ・ソナタ 第15番 ニ長調 作品28「田園」

ベートーヴェン

1801年の作で四楽章の構成をとり古典的なソナタになっている。

ゾンネンフェルス男爵に献呈された。「田園」という名称は「熱情」と同じくベートーヴェンの死後1838年ハンブルクで出版された際につけられたものである。

第1楽章が低音の連打で始まるこのソナタは創意工夫が随所にみられる。スイスでのレッスンの時、先生は「alla tedesca (ドイツ風に)」とおっしゃった。様式の大切さを教わった一言でした。

第2楽章はベートーヴェン自身好んで弾いていたといわれる。左手のスタッカートの上に古風な旋律が歌われる。中間部長調との対比が効果的である。**第3楽章**は付点二分音符と八分音符の刻みというシンプルな始まりが繰り返される。トリオ部、短調のメロディーの反復も印象的である。**第4楽章**は左手のオスティナート風なバスの上に牧歌的な旋律が歌われる。小鳥のさえずり、嵐など自然描写的な部分もみられる。最後は速く一気に終わる。

第7番 嬰ハ短調 Lento

ショパンが晩年しばしば弾いたといわれる曲。チェロの語りのような序奏で始まる。左手の歌に右手上声のオブリガートが唱和する。中間部では激しさがみられノクターンの趣をもつ。

第8番 変ニ長調 Vivace

6度重音の練習曲であるが molto legato、mezza voce (半分の声で)で始まり、第6番の3度と共にショパンのレガート奏法が要求される曲。

第9番 変ト長調 Allegro assai 『蝶々』

右手によるオクターブや3度の練習曲。軽やかなパッセージの中から隠れたメロディーが浮かび上がってくる。

第10番 口短調 Allegro con fuoco

両手によるオクターブ奏法の練習曲。中間部では口長調 Lento となり右手がオクターブで美しい旋律を奏でる。

第11番 イ短調 Lento - Allegro con brio 『木枯らし』

単音による主題の序奏をもつ。左手の主題の上に右手が半音下降と分散和音の組み合わせによる超絶的な技巧を繰り返す。一旦主題は右手に移るが再び左手に戻り荒々しくも壮大に終わる。

第12番 ハ短調 Allegro molto con fuoco 『大洋』

両手による分散和音が広い音域に渡って奏される。そのうねりの中からコーラル風の旋律が浮かび上がる。この曲集の最後にふさわしい堂々とした曲で、ハ長調の和音で終わる。



浅野 繁

宮城県加美町出身。佐々木美佐子氏の指導でピアノを始め、後に庄司芳武、石橋ときわ、大西愛子の各氏に師事。1964年第8回全東北ピアノコンクール第1位、文部大臣賞受賞。1965年桐朋学園高校音楽科に入学。井口愛子氏に師事。1970年第39回日本音楽コンクールピアノ部門第2位入賞。1972年桐朋学園大学音楽学部を音楽賞を得て卒業。

1976年文化庁在外研修員としてスイスに留学し、アルトゥーロ・ベネデッティ＝ミケランジェリ氏に師事。1980年帰国。

東京、仙台を中心に各地で演奏活動を再開。ソロリサイタルの他、宮城フィルハーモニー管弦楽団（現仙台フィル）等のオーケストラと協演。仙台ニューフィル、鹿児島交響楽団など、アマチュアオーケストラとの共演も行う。1994年宮城教育大学管弦楽団とベートーヴェン作曲ピアノ協奏曲全曲演奏会を行った。1974年ヴァイオリニスト小林武史氏との国際交流基金の要請による東南アジア演奏旅行。1982年同氏と日中国交回復10周年記念音楽使節。また、アメリカ、ポーランド、イタリアなど、国外での演奏活動も行っている。

昭和62年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。

平成7年度宮城県芸術選奨受賞。

宮城学院女子大学名誉教授。

2023年活動予定

館ムジカ 10周年記念アニバーサリーコンサート

4月30日(日) 日立システムズ仙台コンサートホール

グルッポフィガロ ～小さな音楽会～ 第38回発表会

10月7日(土) 仙台市戦災復興記念館記念ホール

お問い合わせ

館ムジカ

022-379-6259

<http://yakatamusica.ciao.jp/>

